

委員会行政視察報告書

平成25年10月18日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

総務文教委員会 西田久志

期 間	平成25年10月 2日（水）～平成25年10月 4日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	長野県安曇野市社会福祉協議会：事務局長 樋口 眞、他 滋賀県米原市：伊吹山文化資料館館長 谷口 康、教育委員会 高橋順之 福井県鯖江市：宇野図書館長、副館長
出張者氏名	西田久志委員長、大鳴二郎副委員長、西村慎次郎委員、三宅文雄委員、 藤原浩司委員、宮地俊則委員、森下金三委員、三宅総務部次長、岡田次長
調査項目	安曇野市社会福祉協議会：デマンド交通について 米原市：廃校施設の有効活用について 鯖江市：子どもの読書活動と図書館整備について
別紙のとおり	

1. 報告書は、視察・研修終了後2週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

総務文教委員会行政視察報告書

総務文教委員会では、長野県安曇野市のデマンド交通について、滋賀県米原市の廃校施設の有効利用について、福井県鯖江市の子供の読書活動と図書館整備についての行政視察を行った。

まず安曇野市ではデマンド交通の事を視察した。安曇野市では社会福祉協議会が管理運営をしており、運行開始まで平成18年から2年半以上の月日をかけて実施されている。

デマンド交通の通称「あづみん」は14台配置されており多くは14人乗りの小型車であり、全市内をカバーし、午前8時から午後5時まで一時間おきに運行されており、30分前までに予約すれば自宅まで迎えに来てくれて、その他の利用者の家を順次回りながらそれぞれの目的地で降ろす素晴らしいシステムでありました。既存の公共交通が無いという所が井原市と違いそれが発達の理由かもしれない。また、初期の段階から苦情をしっかりと対処している姿勢からもうかがうことができる。井原市ではデマンド交通とあいあいバスとの連携がもう少し密になり、利便性を増すことが急務であると思う。

米原市では、3校の廃校がありそのうちの1校で文化資料館として運営されていました。その他1校はデイサービスが利用されており、もう一校は倉庫として活用されていました。

伊吹山文化資料館では多くの資料や、子民具が展示収納されており、友の会の活躍により地域の子供たちとの交流、また勉強会と多くの行事をこなしていた。年間の来館者は6000人くらいあり、廃校とはいえ市内の中心地にあり、利便性がいいため多くの人が利用されていました。井原市では地域的に利便性が悪く、難しい面があるが、インターネットを活用したり、メディアを利用すればまだまだ活路はあるのではないかと思う。

鯖江市では、ここでも友の会の活躍が目立った。鯖江図書館友の会便りが104回を数え、その他10もの講座を行い図書館発展の礎になっている。その一つに図書のクリーニングがあり毎月一回10人くらいで行っている。また、3歳から10歳までの子供を対象に絵本の読み聞かせや手遊び折り紙をして本に親しむきっかけを作っている。

ひとつの事業が発展発達するには多くの協力が必要だと思う。それにはリーダーとして「腹を切る覚悟、」「責任は俺がとる」という覚悟が必要であろうと思う。よきリーダーを育成するのも大きな課題だと思う。

委員会行政視察報告書

平成25年10月 日提出

井原市議会議員 宮地俊則 様

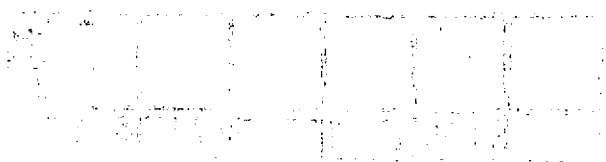
報告者

総務文教委員会

大嶋二郎

期 間	平成25年10月 2日(水)～平成25年10月 4日(金)
出張先及び 担当職員 職名・氏名	長野県安曇野市社会福祉協議会：事務局長 樋口 真、他 滋賀県米原市：伊吹山文化資料館館長 谷口 康、教育委員会 高橋順之 福井県鯖江市：宇野図書館長、副館長
出張者氏名	西田久志委員長、大嶋二郎副委員長、西村慎次郎委員、三宅文雄委員、 藤原浩司委員、宮地俊則委員、森下金三委員、三宅総務部次長、岡田次長
調 査 項 目	① 安曇野市社会福祉協議会：デマンド交通について ② 米原市：廃校施設の有効活用について ③ 鯖江市：子どもの読書活動と図書館整備について
① 民間路線バスが廃止となり新たな公共交通システムで14台の「あづみ」 の受託で14台の乗客バスを中心とした運行を開始した。各エリアあり オペレーターを導入し積極的に取り組んでいる。他のエリアとの連携もできている。 家から目的地に行く事で高齢者の方を病院から取り出すと出向く人達もシ 痴呆にはならない又家にとどまる事が無くなる。行政任せにしない事。	
② 廃校の内伊吹山文化資料館への視察。15名5団体を迎えた。 数多くの民具・生活道具・写真等の資料がありよくまとまっていた又協力 した事を感じた。又友の会の活動が誠意に頭の下がった。子供達へ 体験教室等をサポートし制作名人が昔の制作を教える。子供達に又先生方 も知る事出来る。又友の会の資料は伊吹山に誇りがある。これら後世 に受け継がせたい。この事でありすばらしい考えである。会員も年々 増加しているとの事。平均年齢80才健康寿命日本一が鯖江市か？	
③ 図書館の方では学校は何を求めているか。又私達職員は 何をすべきかわかなく解らぬ。学校との連携をうまく行て あり学校より要請がある本をとりよせ学校へ貸出する。 又小学校1年へ6才も迫っていき図書館で学ぶ読書の 習慣をさせる。又子供達だけでなくPTA評議員を対 象にした読み聞かせ講習会を行い。又PTAの集会に伴	

せて図書館の司書が学校へ出向き、初心者向けの講習
会後、読み聞かせの実演等を行う等、一体となり取り組んで
いる。全国学力テストにて福井県が常に上位にランク
している事は、はっきりと解った。研修視察であったが、いい。



委員会行政視察報告書

平成25年10月18日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

総務文教委員会 西村 慎次郎

期 間	平成25年10月 2日（水）～平成25年10月 4日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	長野県安曇野市社会福祉協議会：事務局長 樋口 眞、他 滋賀県米原市：伊吹山文化資料館館長 谷口 康、教育委員会 高橋順之 福井県鯖江市：宇野図書館長、副館長
出張者氏名	西田久志委員長、大鳴二郎副委員長、西村慎次郎委員、三宅文雄委員、 藤原浩司委員、宮地俊則委員、森下金三委員、三宅総務部次長、岡田次長
調査項目	安曇野市社会福祉協議会：デマンド交通について 米原市：廃校施設の有効活用について 鯖江市：子どもの読書活動と図書館整備について
『安曇野市社会福祉協議会：デマンド交通について』	
長野県安曇野市社会福祉協議会	
1. クローズアップ現代で放送されたビデオを視聴	
2. デマンド交通についてヒアリング	
(1) 安曇野市の概要	
- 平成17年10月1日 3町2村が合併 - 南北に18km, 東西に9kmの平野な地形の市 - 合併前は、循環バスや福祉バスなど各町村で違った運用を行っていた	
(2) デマンド交通（あづみん）の概要	
- 車両14台（ワゴン11台, セダン3台） - 料金 大人300円, 小学生100円, 障がい者100円, 未就学児：無料	

1. 報告書は、視察・研修終了後2週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

・運行時間 8：00～17：00（13：00～14：00は運休）	
※平日のみの運行で、土日・祝日・年末年始は運休	
※予約は1週間前から可能で、30分前まで予約可能（8時運行のみ前日予約）	
・利用状況 年間約9万人利用	
※利用者の約8割が女性、また利用者の約8割が60歳以上	
・費用 導入費用：1億4600万円，運用費用：7100万円／年間	
・『あづみん』の成功要素	
① 住民目線であるか	
② 武士と商人がいるか	
③ 三位一体かどうか	
④ しっかりと予算をつけているか	
⑤ 統計をとっているか	
⑥ 苦情にしっかり対応しているか	
⑦ 向上心があるか	
3. デマンド交通『あづみん』試乗	
4. 所感	
地形や市街地が市の中心にあることや路線バスが走っていないなど、デマンド交通が利用される条件がうまいぐあいに揃っている地域だと感じた。そういう中ではあるが市民のニーズをアンケートによりの確に把握し、『あすみん』の運行に活かされている。また、多様なニーズにすべて応えているわけではなく、しっかりとしたポリシーのもと、選択と集中をされている。	
井原市との大きな違いは、路線バスが無いことである。路線バスの存在はデマンド交通導入に対して大きな壁になると感じた。また、井原市の乗り合いタクシーとの違いは、目的地まで乗り換えなしで行けるところである。	
印象に残った言葉は、「すべての家が停留所」。	

『米原市：廃校施設の有効活用について』

滋賀県米原市

1. 伊吹山文化資料館の概要

- ・平成17年 4町が合併し米原市となった。
- ・伊吹山文化資料館は、旧「春照（すいじょう）小学校」の分校跡施設を利用
- ・伊吹山文化資料館のテーマは、「伊吹山と山麓の文化」
- ・ボランティア団体である「友の会」が、来館者の案内や体験教室の講師などを行っている。

※平成24年より、新世代友の会ということで、ママさんサポーターが発足

- ・年間の来館者数は約6000人
- ・運営費 指定管理者費用 720万円／年
- ・米原市には、本校以外に2分校が廃校になっているが、1校はデイサービスで利用されている。もう1校は資料の物置として利用されている。

2. 所感

「友の会」というボランティア団体の存在は、運営継続する上で大きな力となっている。企画展を年7回開催したり、児童に対して体験教室など、さまざまな場面で貢献している。

井原市との違いは、立地条件である。割と市内の中心部にあり、来館しやすい場所にある。



『鯖江市：子どもの読書活動と図書館整備について』	
福井県鯖江市	
1. 鯖江市図書館の概要	
・「鯖江市文化の館」の中の1つの施設として図書館がある。	
・「鯖江市文化の館」の中には、図書館以外に「視聴覚ライブラリー」と「映像情報館」がある。	
・基本理念「市民と創る、市民のための、市民の図書館」のもと各事業が行われている。	
・蔵書冊数 図書 313,307 冊（うち、児童向け図書 64,459 冊） H24 実績	
参考 井原市は3図書館合わせて 239,171 冊（うち、児童向け図書 75,261 冊）	
・利用状況 年間貸出数：460,593 冊 （市民1人平均 3.90 冊） H24 実績	
参考 井原市は3図書館合わせて 218,113 冊（市民1人平均 4.97 冊）	
・開館時間 10:00～18:00 ※金曜日は 10:00～20:00（祝日の場合は 10:00～18:00）	
休館日は、毎月第4木曜日、年末年始（12月29日～1月3日）	
参考 井原市の開館日は火～金：10:00～18:00 ※金曜日は 10:00～19:00	
土日：9:00～17:00	
2. 児童サービス事業一覧	
○本との素敵な出会い事業・・・一人では文化の館を訪れることのできない幼稚園・	
保育所（園）の園児を招待して、本や映像に親しんでもらうことが目的。	
○あかちゃんと絵本のひろば事業・・・絵本と出会うきっかけをつくり、親子が本を	
媒介として触れ合うことの喜びと大切さを伝えることが目的。	
○絵本とよちよち1・2・3事業・・・絵本との出会い、読書のきっかけづくりの次の段階。	
○こどものつどい事業・・・紙芝居・絵本の読み聞かせや工作、折り紙を楽しむ参加	
自由の集会活動。	
○ブックトーク事業・・・小中学校に出向き、テーマに基づいて数冊の本を紹介し、	
読書への関心を喚起する。	
○図書館司書の日事業・・・鯖江市のすべての小中学校を月2回ずつ訪問し、子供たちに	
読書の楽しさや知ることの喜びを伝える。	

○ちかもん文庫（団体貸出）事業・・・小学校・中学校に対して、朝読用の本の貸出を行う。学校側からのリクエストを反映させた選書で利用度を高める。

○こどものつどいスペシャル事業・・・人形劇など、ふだん「こどものつどい」ではできない鑑賞事業を行い、図書館に親しんでもらう。

3. 所感

鯖江図書館は、人口に比べて非常に大きな図書館であった。広いスペースに、本を探しやすい工夫がされ、また本を読んだり個人学習したりできるスペースも工夫されていた。そういう中で、一番印象に残ったのは、図書館と小中学校・幼稚園・保育所が密に連携しているところだった。児童サービス事業が豊富で、生徒・児童・園児一人ひとりが本に触れる機会を増やされている。

子どもたちの学力向上の手段の1つとして、図書館の役割は大きいと感じた。



委員会行政視察報告書

平成 2 5 年 1 0 月 1 8 日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

総務文教委員会

三宅 文雄

期 間	平成 2 5 年 1 0 月 2 日（水）～平成 2 5 年 1 0 月 4 日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	長野県安曇野市社会福祉協議会：事務局長 樋口 眞、他 滋賀県米原市：伊吹山文化資料館館長 谷口 康、教育委員会 高橋順之 福井県鯖江市：宇野図書館長、副館長
出張者氏名	西田久志委員長、大鳴二郎副委員長、西村慎次郎委員、三宅文雄委員、 藤原浩司委員、宮地俊則委員、森下金三委員、三宅総務部次長、岡田次長
調査項目	（１）安曇野市社会福祉協議会：デマンド交通について （２）米原市：廃校施設の有効活用について （３）鯖江市：子どもの読書活動と図書館整備について
（１）安曇野市のデマンド交通「あずみん」の利用に当っては、まず利用者登録をしてから、 社会福祉協議会の受け付けセンターへ電話で予約申込みをします。受付の担当者は運 転手と連絡を取り合いながら、運行ルートを決めます。タクシーは 1 4 人乗りで、午 前 8 時から午後 5 まで、1 時間間隔で運行し、利用者の自宅から病院、商店、公共施 設等へ高齢者、障害者等の送迎に当たっています。利用料金も 1 回当たり 3 0 0 円と非 常に手頃です。自宅と目的地を同時刻に出発して運行されますので、非常に効率がよ いと感じました。また朝夕は同じ車両を使って定時定路線運行もしており、通勤通学 のための足としても活躍しているとのことです。路線バスに比べて多様な需要に対応 できていて、これぞ本当の意味でのデマンド（需要、要求）交通であると思いました。	
（２）伊吹山文化資料館は廃校校舎を改修し、平成 1 0 年に開館。市の指定管理者制度によ り、年間 7 7 0 万円の予算で友の会（現在の会員数 1 4 名）の会員によって運営され ています。主な事業はこの地域に現存している歴史資料の収集、生活道具や農具等、 古民具の展示や保管、貸し出し。伊吹山の自然と歴史だけを題材とした企画展、子供	

たちを対象にした体験教室や大人向けの歴史講座の開催等々。入館者も開館以降、コンスタントに年間5～6000人で推移しています。資料館には重要文化財等を展示する「中央型」、観光地の中核施設となる「観光型」、地域の歴史資料等を展示する「地域型」の三つのタイプがあり、地域型でも当資料館は「地域・放課後型」に属し、日常的な暮らしにも密接に関係していて、その地域の方々の思いが詰まっています。地域から、子供たちの声が聞こえなくなってきつつある現代社会にあって、かつて大人たちが学習した校舎に子供たちを呼び寄せて、自分たちの住んでいる地域のよさを知ってもらいたい。歴史、文化の伝統を継承して頂きたい。そんな思いがひしひしと感じられました。友の会の会員の皆様の献身的な活動に、本当に頭が下がりました。 (3) 鯖江市文化の館へ着いてまず驚いたのは、建物がすごく近代的なことであった。わが井原市の庁舎を建設したくらいの金額を投じて建設されたこの建物、さすが教育県、福井県のやることは規模が違うなあと感じた。1階には日本初の免震書架を採用し、15万冊が収容可能な一般閲覧室、特徴的なのは、喫茶室も備えているとの事。本の貸し出し・返却もコンピュータを使って、迅速・確実に処理しているとの事である。2階には3万冊収容可能な書架があり、高い天井と明るく開放的な雰囲気のなかで、読書のできる児童閲覧室、座席数164席と200インチのスクリーンを備えた映像情報館、視聴覚研修室や製作編集室もある。年間貸し出し冊数が50万冊、年間来館者数は30万人にものぼる。鯖江市の人口が約7万人だから、市民1人当たり、4回は利用した計算になる。特徴的であったのは、図書館と協働で行っている、友の会の活動である。年額1500円の会費を払い、会報の作成、本拭きや返却時の書架への配架等のボランティア、各種サークル活動や演奏会、講演会開催の支援、喫茶室の運営協力まで、図書館の運営を側面から支援している事である。そしてもうひとつ、感心したのは学校図書館支援センターの存在である。教科書で学んだ事をさらに調べるなど、学校での読書活動を支援するため、司書が学校を訪問したり電話で伺ったりして要望をまとめ、各学校に月2回配送・回収をしているとの事である。どの学校にも図書室もあり本もある。先生も教材に使用したい本もあろう。教育現場と中央図書館が本を融通し合える環境。改めて当市の教育にかける熱意に深く感動いたしました。
--

1. 報告書は、視察・研修終了後2週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

委員会行政視察報告書

平成 25 年 10 月 16 日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

総務文教委員会 藤原 浩司

期 間	平成 25 年 10 月 2 日（水）～平成 25 年 10 月 4 日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	長野県安曇野市社会福祉協議会：事務局長 樋口 眞、他 滋賀県米原市：伊吹山文化資料館館長 谷口 康、教育委員会 高橋順之 福井県鯖江市：宇野図書館長、副館長
出張者氏名	西田久志委員長、大鳴二郎副委員長、西村慎次郎委員、三宅文雄委員、 藤原浩司委員、宮地俊則委員、森下金三委員、三宅総務部次長、岡田次長
調査項目	安曇野市社会福祉協議会：デマンド交通について 米原市：廃校施設の有効活用について 鯖江市：子どもの読書活動と図書館整備について
別紙添付	

- 1. 報告書は、視察・研修終了後 2 週間以内に提出してください。
- 2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

※ 安曇野市社会福祉協議会：デマンド交通について

安曇野市は、ごく一部の路線を除いて、民間路線バスが廃止されており、旧町村においては独自に交通施策を行っていたが、連携がとれていなかったり、利用者が低迷するなどの実態があり、地域間の交流や連携を推進し、安全で快適な地域づくりを目指すうえで、各地域内の運行にとどまる交通体系を再構築し、新たな公共交通システムを確立することは重要かつ早急に解決すべき課題となり平成18年7月、国土交通省の公共交通活性化総合プログラム事業により関係者と連携しながら各地域の住民意向を十分に反映した新たな公共交通システムの実現を目指した検討会を設け検討を重ね、65歳以上や高校生の居る世帯へのアンケートを重ね、アンケート結果から見えてきた課題を検証し、平成19年9月10日から「あづみん」の愛称で14台(14人乗)の乗合タクシーを中心とした運行を開始、公共交通活性化総合プログラム事業での検討を踏まえ、安曇野市地域公共交通協議会を設立するとともに、安曇野市地域公共交通総合連携計画を作成し、平成20年度から地域公共交通活性化・再生総合事業を導入。3年間の予定で実証運行や調査検討を行っている。

まず、注目すべきは色々な角度からのアンケートを実施し実際に利用する住民の意向要望を丁寧に拾い出し、運行している既存交通の利用状況を調査し国県をはじめ地域団体、交通事業者等を交えた協議会を組織して検討し地域の声を反映。また観光に対応した交通システムの検討に際し観光客からも1000件を超えるアンケートや交通実態調査を実施したことにあると思われる。

井原市でもアンケート調査をしているが、あいあいバス、井原鉄道の運行にアンケートが反映されていないように思われる、井原市では井原鉄道、井笠バス、あいあいバスと定期運行する公共交通があり、安曇野市のようなデマンド交通の配置は一見難しいように思われるが、利用する側の意向要望を各交通網で再検討し、それぞれの交通を単独で考えた上で利点を検証、それぞれの接点を更に検証する事でデマンド交通を構築すれば素晴らしい公共交通網が完成する。

また、自宅から目的地まで直接移動できるフルデマンド方式は、自宅近くに商店や病院、公共施設等が無くても、また自宅前の道路や歩道が十分に整備されていなくても、コンパクトシティーを実践しなくても、車両が運行できる状況であれば対応が可能で住民の利便性を高める事が出来る。将来、免許証をお持ちの高齢者の方が増え利用者が減少しても、バス路線のように線で移動するのではなく、面で移動できるシステムであり、運行台数等の経費を抑えながらも利便性は維持できる優れたシステムである。「**デマンド交通の停留所は各家庭である**」この言葉を絶対忘れては成らないのがデマンド交通であり経費も削減できる、井原市に是非取り入れたいと痛感した!!

※ 米原市：廃校施設の有効活用について

廃校を利用した手作りの資料館で滋賀県の最高峰であり、さまざまな学術研究の宝庫として知られている伊吹山（標高 1377m）の麓に、平成 10 年（1998）3 月にオープンした市立の資料館です。「伊吹山地とその山麓の自然と文化」をメインテーマに、伊吹山の自然に関する化石・草木・発掘で明らかになった考古資料、そして山麓に暮らした人々の生活用具・生産用具を展示しています。

開館に向けて、伊吹町（当時）では平成 9 年 4 月に公民館講座の受講生（町内の 60～80 歳の男女 14 名）を主体に「資料館づくり友の会」を結成。以後、毎週土曜日に集まり、民具や資料の分野ごとの仕分け、清掃・改修作業、そしてアイデアを出し合って、実際の展示づくりをおこない、たくさんある模型は職員やメンバーの手作り。現在も「資料館友の会」として大活躍（23 名）。平成 15 年（2003）6 月、文部科学省「全国廃校リニューアル 50 選」に県内で選ばれている。

この事業は、米原市教育委員会の方からの依頼があって実現、成功した事例ですが、やはり地元地域の皆さんのやる気が成功の秘訣のように思われました、官は官の役割、民は民の役割をしっかり持ち、町おこしになったとても貴重な事例であったように思います。井原市の協同のまちづくりの手本になるように思われます。

鯖江市：子どもの読書活動と図書館整備について

豊かな資料や情報を提供することで市民の日々の活動を支援すると共に、子どもから大人まで、あらゆる年代層の要求に応じた事業を展開して、市民が交流する拠点になることを目指したとてもヤル気のある図書館です。

特に、小中学校の学校図書館機能の充実を支援して居るところです、学校側と連携をした新しいタイプの図書館、本来学校側と連携するのが当たり前、それが現実には全く出来ていない。改めて本、図書館の大切さを実感いたしました！また、とても素晴らしいのが民間のボランティア活動の方々の友の会、総勢250の方が自ら会費を納め図書館に新たな風を吹き込ませ活性化を進行中・
・本当のヤル気を感じました。

学校側と連携を取ることで図書購入費も大幅に削減でき各学校に司書をおく必要も無くなる、そして学校側まで車で宅配までするという素晴らしさ、忙しい教師の手間をも削減している。

井原市も図書館・学校図書のあり方を本気で考えるべきである。

委員会行政視察報告書

平成25年10月16日提出

井原市議会議長 宮地俊則 様

報告者

総務文教委員会 宮地俊則

期 間	平成25年10月 2日（水）～平成25年10月 4日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	長野県安曇野市社会福祉協議会：事務局長 樋口 眞、他 滋賀県米原市：伊吹山文化資料館館長 谷口 康、教育委員会 高橋順之 福井県鯖江市：宇野図書館長、副館長
出張者氏名	西田久志委員長、大鳴二郎副委員長、西村慎次郎委員、三宅文雄委員、 藤原浩司委員、宮地俊則委員、森下金三委員、三宅総務部次長、岡田次長
調査項目	安曇野市社会福祉協議会：デマンド交通について 米原市：廃校施設の有効活用について 鯖江市：子どもの読書活動と図書館整備について
○デマンド交通について	
安曇野社会福祉協議会が主体となり、平成19年9月より「あずみん」の愛称で	
運行されています。予め、利用登録（無料）をしておき、出かけるとき受付センタ	
ーに電話で予約すると、自宅まで迎えに来てくれ希望する目的地まで送ってくれま	
す。また、帰るときは商店や病院まで迎えに行き自宅まで送ってくれるというもの	
です。利用料金は大人1人1乗車300円です。	
受付センターにはNTTフルデマンド方式の端末を設置し、オペレーターが電話	
を受けると即座に画面上で予約者の自宅を把握し、最短コースを設定、予約確認を	
することとしており、オペレーターの手腕が大である。また、14台の車両にも端	
末を備えており、1コース1時間以内に必ず終了する、という素晴らしいシステム	
でした。	
安曇市が成功した背景には早くより民間路線バスが廃止されており、競合するバ	
ス会社が少なかったことがあります。しかし、何より徹底した調査と情報分析、そ	
れに信念に基づいたリーダーの存在が大きいと感じました。事業目的を明確にし、	

存続のために利用者にも決して妥協しない姿勢には敬服しました。
井原市とは地形・面積や民間バス会社の存在などの違いがあり、そのまま導入とはならないが、交通弱者と言われる方々の足を確保するためには少しでも利用しやすいものになるよう、見習う点が多々あると感じました。
○廃校施設の有効活用について
米原市内の小学校 3 校が廃校となり、1 校が伊吹山文化資料館として活用されている。因みに 1 校が介護施設でもう 1 校は物置となっている。平成 8 年に文化財審議会において「本市には資料館が無い」とのことから文化推進事業交付金を活用して指定管理（年間 770 万円）で運営されている。
古民具なども収集、展示してあり、子ども向けの体験教室や大人向けの歴史講座を開催し、入館者は開館以来年間 5 ～ 6 千人で推移している。
特筆すべきは「資料館づくり友の会」なるボランティアの方々の存在である。立派な（高価な）資料館ではなく、手作りで展示をされている点が素晴らしい。友の会のメンバーは高齢者の方が多いが、皆さん生き生きとして子供たちに説明されているとのこと。「高齢者の生きがい施策」としても大変有効なものとなっているようです。
本市としても散在する資料館の整理統合も含め検討する価値があると思う。
○子どもの読書活動と図書館整備について
鯖江駅から車で 5 分ほどの広大な土地に「文化の館」として図書館・視聴覚ライブラリー・映像情報館がありました。総事業費 35 億 6 千万円、蔵書数 33 万 5 千冊（ＡＶ・雑誌含む）と人口が井原市の 1, 5 倍の市として本当に素晴らしいものでした。
特筆すべきはここでも年間 1, 500 円の会費を払ってまで加入している「鯖江図書館友の会」のボランティアメンバーが大勢おられ、「友の会だより」の発行、催し物

の企画、図書の選定・補修、コンサートなど活発に活動されている点です。また、子どもの読書支援として学校図書館支援センターがあり、その中の学校図書館研究部会が「ちかもん文庫」として「子どもたちに読んでほしい本」を推薦し、学校に貸し出しています。

子ども達に本を通じた教育というものに対し並々ならぬ熱意を感じました。

全国学力テストで常に北陸地方が上位を占める背景にはこうした地道な努力の積み重ねが決して無縁ではないことを確信しました。

1. 報告書は、視察・研修終了後2週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

委員会行政視察報告書

平成25年10月15日 提出

井原市議会議員 宮地俊則 様

報告者 森下金三
総務文教委員会

期 間	平成25年10月 2日（水）～平成25年10月 4日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	長野県安曇野市社会福祉協議会：事務局長 樋口 眞、他 滋賀県米原市：伊吹山文化資料館館長 谷口 康、教育委員会 高橋順之 福井県鯖江市：宇野図書館長、副館長
出張者氏名	西田久志委員長、大鳴二郎副委員長、西村慎次郎委員、三宅文雄委員、 藤原浩司委員、宮地俊則委員、森下金三委員、三宅総務部次長、岡田次長
調査項目	安曇野市社会福祉協議会：デマンド交通について 米原市：廃校施設の有効活用について 鯖江市：子どもの読書活動と図書館整備について
・デマンド交通について 運行主体は安曇野市社会福祉協議会であります。利用登録（無料）をしてお出かけの時、受付センターに電話で予約をすると、自宅などに迎えに行き、希望する目的地まで送りまた帰りは商店や病院などに迎えに行き、自宅などへ送る（土日・祝日・年末年始は運休）料金は大人1人1乗車300円 路線バスが撤退したのでその点このシステムがスムーズに出来たと思う。 NTTフルデマンド方式導入のシステム使用料年間700万円ぐらいとのこと。 井原市に於いては路線バスとの関係があるが、高齢化が急速に進んでいる状況で、また運転免許証の自主返納した高齢者等の交通弱者といわれる方々が増加しています。地域によってはこのデマンド方式に移行し住民に便利で利用しやすい方法に改善していく必要がある。	
・廃校施設の有効活用について 3校廃校が有り1校は倉庫で2校は介護施設に活用と伊吹資史料館として活用している。 伊吹山資料館は古民具にスポットを当て主な事業は歴史資料の収集、保管、貸出などをし、子供向けの体験教室や大人向けの歴史講座など開催している。入館者は年間5～6000人を推移している。この要因は資料館友の会がボランティアでの協力があるものと言える。伊吹山資料館としての活動内容を見れば廃校の有効活用は成功と思える。	

井原市に於いてはこのような資料館は現在、芳井歴史民俗資料館として存在しているそれを充実すべきであり、当市の休校中3校は別の有効活用を市民の声を聞きながら（体育館を除き解体を含めて）検討していく必要がある。

・子供の読書活動と図書館整備について

鯖江市文化の館として図書館、視聴覚ライブラリー映像情報館があり、総事業費 3558437 千円延床面積 6656、58 m²、交流面積 4,000 m²空間の広い立派な図書館である。

鯖江図書館友の会（年間会費 1500 円）を組織し「市民に開かれた、市民の図書館」づくりの貢献をしており、このような活動をしている団体は全国的にも極めて稀である。

ちかもん文庫として鯖江市学校図書館研究部会が子供会たちに読んで欲しい本を推薦し、そのリストをもとに選書した本です。

朝読書用の本（読み物・絵本）については、申し込みのあった学校に1学期に1セットを貸し出しています。

小学校低学年用 100 冊×4 セット

小学校中学年用 80 冊×4 セット

小学校高学年用 100 冊×4 セット

中学校用 200 冊×3 セット

平成 24 年度の利用状況 貸出冊数 4960 冊（43 セット）

1. 報告書は、視察・研修終了後 2 週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。